

秋の牧草のまき方

牧草は大部分が秋まきです。9月に入るとさっそく次のことに注意して種まきを行ないましょう。

1 まず予定地に土壤改良資材（炭カル 10 アール当り 200～400 キログラム、及び堆肥）と草地肥料（溶燐 30 キロ、尿素 7 キロ、塩化加里 10 キロ）を施し、できるだけいねいに整地して種まきの準備をします。

2 牧草の種子は新鮮なものを選び、さらに栄養価を高め、収量をふやすために「イタリアンライグラス」「レッドトップ」「ペレニアルライグラス」「H・I ライグラス」「ラジノクローバー」「レッドクローバー」等を混播するようにします。

3 種まきの方法は、整地区面を完全にして、イネ科と荳科をむらなく別々にまきます。この場合、牧草の種子は小さいので、砂かノコギリクズで 2～3

培に量を増やしますが、荳科のものは荳科植物の生えていたところの土で量を増やしてまくことがたいせつです。また播種直後には竹ボーキ、シバハローを用いて軽く覆土し、鎮圧を行いましょう。この覆土、鎮圧は発芽をよくし、生育を高めるために重要なことですから必ず実施してください。もしも害虫の被害があると思える場合は、あらかじめ予定地に B・H・C などを撒布するか、または種子に混ぜるとよいでしょう。また発芽を早めるには雨の降ったあとで播種すると効果的です。